

かわさきTMO通信

＜毎度おじゃまします・かわさきTMOタウンマネージャーです＞

2014年10月号 No.55

- 秋のイベント盛り上がる
- 道路適正利用パトロール
- 川崎市総合計画のゆくえ
- 事務局便り

発行元：川崎商工会議所
 発行責任者：会長 猪熊俊夫
 編集責任者：タウンマネージャー 笹原克
 発行日：2014年10月25日
 発行部数：1,000部
 ◆連絡先
 TEL：044-211-4114
 FAX：044-211-4118
 Email：
 sa Sahara@kawasaki-cci.or.jp
 「まちづくり情報交換誌」を目指しています。タウンマネージャーにお気軽に情報をお寄せください。ご意見・ご感想・ご要望大歓迎です！

→ 今年度告知ポスター。JR南武線・鶴見線の車両窓上などに掲出しています。

◇秋のイベント盛り上がる
 川崎の秋のイベントを多くの人に知ってもらうために、平成19年度に6つのイベントを広くPRするためには始まった「フェスティバルなかわさき」の事業が、本年度は17のイベント団体の皆様にご参加いただき、9月27日（土）より川崎区・幸区で順次開催されています。
 お楽しみの、タッチラリーも10月11日（土）から11月2日（日）までの毎週末に実施しています。



▲エイエイオーと盛り上がった市長表敬！
 ←3年目の告知イベントで、年々大きくなるジェンカの輪。今年のテーマは「イベントでつなぐ絆」でした。

9月26日（金）には、イベント団体の皆様ならびにイベントを盛り上げるマスコットキャラも参加して、福田川崎市長を訪問したり、翌27日（土）には、ラゾーナ川崎プラザ・ルーファ広場をお借りして盛大に告知イベントを実施してオープニングを飾りました。

今後についても、日本一の呼び声も高い「カワサキハロウィン」をはじめ「かわさき市民祭り」「日吉まつり」道灌祭「モントルー・ジャズ・フェスティバル」など様々なイベントが目白押しです。
 ぜひこの機会に魅力満載の川崎を再発見して頂ければ幸いです。
 （事務局 神谷修）



▲29回目を迎える「かわさき阿波おどり」。子ども連、地元連、近郊からの強豪連合計14連が参加。

今年度は、川崎市制90周年を記念して「川崎を一步先へ、もっと先へ」を合言葉に各イベントごとに一段と趣向を凝らして皆様方のおいでをお待ちしております。
 9月・10月のイベント前半戦は天候にも恵まれ順調に進んでおります。

◇道路適正利用パトロール

川崎駅東口周辺の商業環境の悪化現象は、「市民の声」を通じて、地元商業者に大きな衝撃を与えています。商店街は、これまで自主的に「商店街協定」を結び、商業環境の改善に取り組んできましたが、その試みをはるかに超えて環境の悪化を市民⇨消費者がとらえられていたという事実は、商業者のモラルまで問われてきました。市民の声は、「商売をしている方は、何を考えて看板や商品を道路上に出しているのでしょうか。法律に触れるようなことをしていて、恥ずかしくないのでしょうか」と訴えています。さらに「私はしばらく、川崎駅東口での買い物は控えるつもりです。(略)商店街のみなさん、本気で頑張ってください。お願いします」と結ばれています。この文書からは、この市民の声を発した方が、本当は東口商店街が好きなのことが読み取れます。このように、東口商店街を支持してくれていた市民⇨消費者に愛想をつかれるような商業環境になっている現実を、商業者は、目を凝らして、真摯に見つめる必要があります。

本年3月に行われた通行量調査に

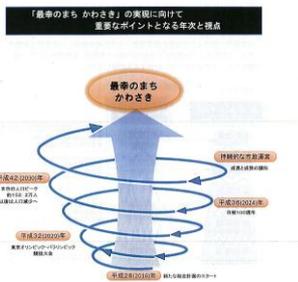
において、東口の通行量が減少する傾向がみられました。その原因は、一時的に雨が降ったことがあると思いますが、それだけが本当に原因だったのでしょうか。声にはださなくとも、「東口での買い物は控えるつもりです」と思っている市民⇨消費者が潜在的に増えているのではないのでしょうか。買い物は、楽しく、安全に、便利にしたいものです。その環境を商業者自身が疎外しているとすれば、それは、商業者が自身自ら、市民⇨消費者を遠ざけて、自分の首を絞めていることにほかなりません。

7月3日を皮切りに、川崎市、川崎警察、地元商店街、TMOが中心になって道路環境の改善パトロールを実施しています。しかし、パトロールが過ぎると、再び看板を道路に置き、商品を道路上に並べる店が多くみられます。11月17日から21日までの5日間は、連続してパトロールを行います。この連続パトロールを契機に公道上への違法の看板設置や商品展示を一切なくすことに、商業者の意識を確立したいものです。是非、商業者の奮起が期待されます。

(タウンマネージャー 笹原克)

◇川崎市総合計画のゆくえ

本年度と来年度にかけて「川崎市の総合計画」の策定作業が進められています。将来の川崎市のあり方を6年後(2020年)、10年後(2024年)、16年後(2030年)を目標年次として策定していきます。計画のキャッチフレーズは、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」となります。現在は、計画にあたっての策定方針が出されました。その前提となる基本認識は、6つあります。第一が「少子高齢化・人口減少」。第二が「厳しい財政状況」、第三が「都市インフラの老朽化」、第四が「産業経済の環境変化」、第五が「災害や環境問題への対応」、第六が「市民の主体的取組み」となります。今後様々な階層での意見を集約させて、計画が策定されます。注目していきます。



(タウンマネージャー 笹原克)

◇事務局便り

●今年も始まりましたタッチラリー。昨年度と一部ルールを変更し、これまで3つまで利用できたICカード類が今年は1人1つとなりました。単純に計算するとタッチ数は3分の1かということになりますが、初日タッチ数は4892と昨年度5317と大差のない数字が出ました。その後も数字は好調に推移、18日には8033まで伸びました。すっかりおなじみになったタッチラリーが街の回遊性向上に一役買っていることを願って、11月2日までの毎週末、タッチラリー機はフル回転いたします。景品提供をいただいた多くの企業や個店の皆様、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

●かわさきTMO平成26年度第2回総会を11月25日(火)、午後3時〜4時半、川崎市産業振興会館12階会議室で開催いたします。今回の総会では、平成26年度活動の中間報告が主なテーマとなります。会員の皆様には、あらためてご案内をお送りいたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

(事務局 六反友佳里)